



# 小児科



私たち小児科は、島根大学小児科と連携し、大学小児科では稀少難治疾患に、当科では“急性疾患を始め小児特有の疾患と後期早産児に対応すること”にしています。

小児科では年間1,000例を超えるお子さんの入院を引き受けています。小児科入院例の特徴は、(1)6歳以下の乳幼児例が多い、(2)市中感染症を中心に幅広い分野の症例が多彩で豊富、(3)救急外来の症例が多いことです。小児市中感染症はもちろん、日常遭遇する小児疾患に対して、国内外のガイドラインとこれまで自分たちで培ってきたエビデンスを基に、“明確な臨床診断のもと、安全で有効、しかも効率の良い治療”が行えるよう、院内での“小児診療指針”を作成しました。救急科(ER)での小児診療の際、担当して下さるすべての先生方に参考にしていただいています。臨床研修医の皆さんも、この指針を「標」に、1か月の小児科研修とERでの小児への対応を行っていただきます。

新生児科の入院は年間400例ほどとなっています。地域周産期母子医療センターとして、島根大学と協力し治療をしています。小児科研修期間にはハイリスク児の分娩立ち合いなど、小児科医、総合医としても最低限の手技の理解を目指してもらいます。

小児科医は、「こどもの総合診療医」です。臨床研修医の皆さんは、将来の島根の医療、そして小児医療を担っていただく大切な存在です。短い研修期間でも、臨床研修医の皆さんが立派に「こどもの総合診療医」として巣立っていけるように、そして、小児科専門医を志す人が一人でも多く現れるように、私たちは臨床指導に力を注ぎます。

